

大分教区少年連盟通信

あそぼ

第 6 号
2005年2月10日
大分教区少年連盟発行

大分教区子どもの集い

住吉浜であそぼ!

院内組安楽寺 井上 旭



●開会前「何が始まるのかな?」●

去る二〇〇四(平成十六)年六月十九日、杵築市の住吉浜リゾートパークにおいて隔年開催の大分教区子どもの集いー住吉浜であそぼーが開催されました。当日は台風の影響から天候が危ぶまれましたが大きな崩れもなく、初夏の住吉浜に県内各寺から約百

六十名の子どもが集いました。午前十時半からふれあい広場にて開会式を行い、引き続き「ウオークラリー」を行いました。ハチームに分かれ、十箇所のチェックポイントをそれぞれに渡された写真を頼りに目指します。各ポイントにはスタンプが待機して、それぞれでミニゲームなどをクリアしなければいけません。さらにひらがな一文字のキーワードがあり、全て揃えると言葉になるようになっていきます。ポイントが見つからない場合はヒントをくれる「ヒントおじさん」も登場し、子どもたちも試行錯誤しながら楽



●「こんなに大きなゴミも拾ったよ」●

しそうに捜していました。その後再び広場に戻り昼食です。今回はリゾートパークでカレーを作っていたきました。おいしいカレーをおかわりする子どもいました。昼食後のゲームは班対抗ゴミ拾いです。このゲームは会場のゴミや海岸に打ち上げられたゴミなどを拾ってその重さを競うというものです。「来た時よりも美しく」それを楽しみながら学んでくれれば、というゲーム担当者の思いをこめてのゲームです。最初は小さいゴミを拾っていた子どもたちも、慣れてくると大きな流木やらタイヤ、中には海に浮かんでいたブイなどを引きずりながら集めていました。また、いっしょに来ら

少年教化寺族女性研修会に参加して

大海組真光寺 水智 明子

昨年七月六日から七日に、本願寺門法会館にて開催された少年教化寺族女性研修会に参加させていただきました。全国より二十二名が参加し、「育てよう ほとけの子」というテーマのもと講演会、各単体会や教区での事例紹介、模擬日校などを通して具体的な少年強化活動のあり方を学びました。講義では、青少年カウンセラーの外松太恵子先生より「いのちの伝承」と題して、心を込めて子どもたちと関わることが大切だと教えていた



●集合写真「ハイ、ポーズ」●

だきました。その後の事例報告では、さあーはじめよう「あんな日校こんな子ども会」と題して参加者一人一人の報告を聞くことができました。二日目の模擬日校では、実際にゲームをしながら皆が楽しめる日校の進め方を教わりました。今回の研修で、たくさんの先生や参加者の方々とふれあい新鮮な刺激を受け、子どもたちに喜んでお寺に来てもらうには、まず自分自身が楽しむことだと実感させられました。

子どもたちのお念仏よ、大分に響け

新委員長就任あいさつ

重松 祐 誠

今年度から委員長をお受けすることになりました。十数年間、摂受前委員長のもと勉強させていただきましたご恩返しのもりで勤めたいと思っています。

大分教区の少年連盟は、単位数こそ少ないけれど情熱を持って取り組まれているご住職様はじめ指導者の皆さんの

お力で、教区巡回や指導者研修・教区子ども大会など活発に活動しています。今年度は、若い仲間も増え、気持ちだけは若い私も頼もしく感じています。

お寺が好きでどこか安心できる、そんな子どもの笑顔が育ってくれるお手伝いをしたいと考えています。

中央から全寺院サマースクールという大計画も聞こえてくるこの時期に、力量不足ではありますが、一人でも子どもたちにお念仏のご縁が結ばれ大分の空にお念仏の音が響くよう、皆さんと一緒に勤めてまいります。よろしくおねがいいたします。

特集

少年連盟20年の歩み

前委員長・中津組光榮寺

撮 受 定 信

「あそぼ」といふことは、「なろう」とことであり、「なろう」といふことは「学ぶ」とことである。「あそぼ」創刊号、上原教務所長あいさつ文句

という言葉に出会い、「ならい、学んでいる」間に、気がつけばもう二十年を越す長い足跡が残り、月日が流れていました。

化はしたが、組織の充実・活動の促進までは出来ないまま数年が過ぎました。その内に、「何かしようよ。まず子どもを集めよう！」と



撮受定信

思い起こせば昭和の末、まだ少年教化に携わっている寺院が少ない現状の中で、九州ブロック指導者研修会の当番教区が回ってくるの事…。準備会から連盟結成へと組織

た子ども大会も、最近では、二年毎に「あそぼ」をテーマに、趣向を凝らし「①別府・スパーチ②宇佐・四日市別院③大分・七瀬川公園④杵築・住吉浜ビーチ」と、



2003年2月、少年連盟巡回班初の韓国旅行
後列左より、大在・福田・ガイド・撮受・伊美・中尾・護城、
前列左より、尼子・重松・水智ゆう・大原の各氏

県内各地で開催。子ども大会と、リーダー研修会・指導者研修会を隔年で実施し、その活動報告も兼ねて、広報紙として連盟通信「あそぼ」の発刊へとなりました。



●人形劇練習風景●

また、大分県真宗青年連盟(京都在住の学生の会)による夏休み巡回が諸事情により中止解散。これを受け継ぎ、人形劇や影絵劇・ゲームを通じて、少年教化のお手伝いをさせていただく『夏休み巡回子ども会』を連盟で実施。今年で早十三年目を迎え、毎年約二十ヶ所近い寺院や保育園に出かけるこの活動は、他教区には例を見ないものであり、また京都帰りの若いスタッフの登竜門：若い力の人材育成にも繋がっています。「老体に鞭打って頑張ってきたが、そろそろ限界？」と、巡回責任者の伊美君と二人で慰めあってきたが、心の中は「まだまだ！」。

また、十年前の阪神淡路大

2004年夏期子ども会巡回会所一覧

実施日	会 場 寺 院
7月21日	大海組専想寺
7月22日	臼佐組西教寺
7月23日	宇佐組 (四日市別院)
7月27日	臼佐組安養寺
8月 2日	大海組光国寺
8月 2日	大海組長光寺
8月 3日	大野組最乗寺
8月 5日	豊後高田組興隆寺
8月 6日	中津組光楽寺
8月 7日	宇佐組西光寺
8月17日	大海組流芳寺
8月22日	中津組明蓮寺・西蓮寺
8月23日	国東中組 (光徳寺)
8月24日	速見組浄専寺
8月27日	院内組西寶寺

※ 上記以外に保育園を6会所巡回しました

震災直後には、神戸での「花まつり子ども大会」に巡回班として参加。夏休みには船で送り迎えまでして、久住の地に被災地の子ども達を招待。大分の子ども達と満天の星の下でのキャンプファイヤー・久住山に登り感動の汗を温泉で流し、心も体も癒された交流



●人形劇 上演中●



●2003年第5ブロック指導者研修●

流会は、特に印象に残っている行事の一つです。

昨今、いのちにかかわる様々な事件が勃発。今こそ『仏さまに願われている、いのちの尊さ』を伝えるために、「何をしたいか」より、何が出来るのか、「出来ることから始めよう」の心で動きだして

大分教区少年連盟新旧役員名簿

旧役員 (2000~2003年度)	役 職	新役員 (2004~2007年度)
摂受 定信 (中津・光楽寺)	委員長	重松 祐誠 (中津・明蓮寺)
大原 瑞雲 (大野・最乗寺)	副委員長	巖 龍彰 (臼佐・西教寺)
重松 祐誠 (中津・明蓮寺)	評議員	護城 孝道 (豊高・興隆寺)
巖 龍彰 (臼佐・西教寺)	委員(巡回)	尼子 芳淳 (宇佐・蓮照寺)
伊美 善宏 (国東中教円寺)	委員(巡回)	蓮谷 啓生 (大海・妙蓮寺)
尼子 芳淳 (宇佐・蓮照寺)	委員(広報)	大在 憲達 (大海・長光寺)
巖水 敏哉 (大海・流芳寺)	監査員	摂受 定信 (中津・光楽寺)

はみませんか！器によつてどうにでも変わる水の如く、寺ごとの器に法水を浸し、阿弥陀さまからお預かりした子どもといっしょに、どっぶり浸かっていきたいものです。

「やれやれ」という思いで、

大原副委員長と無事退任を迎え、残りの役員は新執行部として、すでに頼もしく動き出しています。

長い間、有り難うございました。

合 掌

あなたのお寺も 大分教区少年連盟に加盟しませんか？

大分教区少年連盟は年会費4,000円（そのうち3,000円は本山の連盟会費）です。加盟すると、指導者の過失による事故の際には、保険が出ます。

2004(平成16)年度浄土真宗本願寺派少年連盟活動方針

1. スローガン

「あわす手に 念仏の声高らかに」

2. 活動方針

「蓮如上人500回遠忌法要御満座の御消息」を体し、宗門の基幹運動に基づき、自他のいのちを大切にし、み仏を敬う少年を育成するために、全寺院に少年教化活動の促進をはかる。

3. 重点目標

- (1) 全寺院における少年教化活動の促進をはかるため、組織の充実・人材育成・教材の開発・広報の拡充を行う。
- (2) 親鸞聖人750回大遠忌法要に向けて、より一層の少年教化に対する意識の高揚と拡充・発展をはかる。又、各教化団体との連携を密にする。
- (3) 「お寺へ行こうよ！ほとけの子」キャンペーンの推進とともに、家庭における家族礼拝を促進する。

少年教化推進員養成研修会に参加して

大野組尊形寺 流 智道

私は昨年の六月一日から三日にかけて、本願寺山科別院にて開催されました少年教化推進員養成研修会に参加させて頂きました。

各教区より二十一名の参加者があり、比叡山ウオークラリーや手遊び、クラフトなど、様々な日程を一緒に楽しく学びました。

講義では「レクレーションを考える」と題し、九州あそびの研究所所長の中島宏先生から手遊び、ゲームを通しての講義を頂きました。その中で「できないことはいけない事ではない、できた時の喜びを増すもの」と教えて頂き、強く感心致しました。また龍谷大学文学部助教授の内藤昭文先生から「子供のための法話」と題し、大人も子供達と同じ目線で考えてゆくことが必要であり、無常という姿を子供達に伝えなければいけないと教えて頂きました。

今回の研修でたくさん仲間と先生方に出会い、少年教化活動の現状、取り組みを学びました。この貴重な体験を自らの少年教化活動、そして教区の活動に役立てていきたいと思えます。

編集後記

昨年の「宗報」十月号をご覧になりましたか？ 宗門の少年連盟では「全寺院サマースクール計画」が実現に向けて歩み始めています。

キリスト教の修道女さんが「仏教がうらやましい。三十代、四十代の頃は教会で『聖書』の勉強会に参加していた人が、六十を過ぎるとお寺に帰っていつてしまっ…」とおっしゃったとか。

子どもの頃にお寺に行った経験が、晩年にその人をお寺に導いてくださることもあるようです。毎月は無理でも、年に一度から始めませんか？